

特定非営利活動法人 りんりん

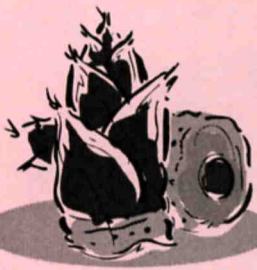


## 『求むヘルパーさん！』

暖冬で終わると思ったのに三月になって震え上がる寒波襲来でした。予想の出来ないことが起きて来るという意味で、まるで人生のよう・・・と思った春でした。

昨年4月に介護保険制度の改訂がありサービス利用者は混乱と不便を感じ、事業者は強制的な仕事と出費の増加に音を上げています。加えてヘルパー不足が事業者の大きな問題となっています。ヘルパーの労働条件は良いとは言えず、景気が上向きになったと報道される現状では、他業種を希望する人が増えてもしかたがないのかと納得せざるを得ません。

でも私はグチを言わずに希望を持ちたいと思っています。人と人が信頼し、支え合うヘルパーの仕事がどんなにか面白く、やりがいのある仕事かは、私が経験し知っているからこそ、そうした仕事を求めているひとはたくさんいると思えるのです。



りんりんのヘルパーの平均年齢は54歳ですが、60歳以上が23%です。つまり子育てを終え、体力・気力・時間のある人たちが仕事をしているということです。平均寿命が延びた今、定年後60歳から10年間は元気に働くことが出来る人たちが大半と私は考えています。登録ヘルパーという働き方は自分の体力に見合った働き方が可能です。一日3・4時間で週に2・3日働くことも出来、今までの豊かなキャリアが活かせる仕事です。いつかは誰かのお世話になる身、元気なうちは誰かの為に働いてみませんか？子育て中の若いお母さん、子育てと同時進行で働くことができ、大歓迎です。

5月19日からりんりんではヘルパー講座が始まります。会報の裏面をご覧ください。詳細はお尋ね下さい。求むヘルパーさん!!

※奨学金制度もあります

(理事長 村上真喜子)

## 穏やかな日々を 過ごしています。



久松 太郎さん(87歳)

お庭がきれいで良く手入れされています。「すずめ・カラス・鳩などの鳥がよく遊びにきていたけれど、ここ数年来ないなあ」と、木々に目をやる久松さん。

柗町には伊勢湾台風のあと引越してきたそうです。「以前は原っぱや田んぼばかりだったけど、すっかり変わってしまって、いつのまにか半田の中心地になってしまった・・・」

5年前に奥様を亡くし、今は一人暮らし。昼夜の食事は頼んで、朝は自分で作ります。「それまではやったこともなかったけれど・・・」といいながらきちんと朝食をとります。

戦争も経験しました。飛行機の部品を作るためにフィリピンにある工場へ。もともと鍛冶屋さんで手に職があったので、実際の戦場には出ずにすんだとのこと。

滋賀県に一人息子さんがお住まいです。3人のお孫さんに会えるのも大きな楽しみのひとつ。「孫がくるとお小遣いにお金が出て行く」といいながら、嬉しそう。

週に一度、りんりんの“デイサービスやなべ”に来られます。「すぐそばの矢勝川沿いで移り変わっていく季節の花を、折々に見に連れて行ってもらうのがたのしい」とおっしゃいます。デイでは、時折とび出すユーモアのある一言がその場を盛り上げます。

近所の昔からの知り合いと話したり、仕事をやってた頃の友人が立ち寄ってくれたり、テレビを見たりして過ごす穏やかな日々です。

# 生き活きサロン

私とりんりんの関わりは、りんりんが活動しだした頃に始まります。基本である“助け合いの精神”にひかれました。その頃の私は、仕事に追われ人間関係に疲れ、人生の目的は何？生きがって何？と悩んでいる時でした。

りんりんでは私自身の癒しの場がほしいと切実に願っていました。自分の体力や時間の範囲内に出来ることを楽しみながらやりたいと思い活動しましたので、ヘルパーの仕事も楽しく毎日が勉強でした。

生き活きサロンが出来て一年余り。私も月一回は参加しています。毎回楽しく過ごさせて頂いており、私の癒しの場にもなっています。

食事は一緒にとる人がいるほど食欲がわくものです。食事を義務と考えず楽しむことも大切だと思います。

(協力会員 橋口まり子)

## 花見に行きました デイサービスやなべ

2月の終わりに佐布里へ梅を見に行きました。

天候にもめぐまれ、歩いていると春を感じさせられるような一日でした。利用者の方々も温室へ入って花を見たり、佐布里池を見に行ったり、屋台でたい焼き・たこ焼きをおみやげに買ったりと短い時間でしたが、楽しそうでした。

梅の花もほぼ満開で、時折風によって梅の香りを感じたりすることも出来ました。



昼食は、NPO法人“みんなの家ほっと”でお弁当ランチをいただき、外食ということもあり食事の利用者皆さんの会話もはずんでいました。

(スタッフ中野)

### 報告いたします

日本財団様より《デイサービスやなべの浴槽設置》のための助成金をいただけることになりました。

